

平成30年度

『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくり
とブランド化事業（禅ブランディング事業）

自己点検・評価報告書

令和元年5月

駒澤大学禅ブランディング
自己点検・評価実施委員会

曹洞禅とその源流研究チーム

代表者	仏教学部	角田泰隆
メンバー	仏教学部	池田練太郎、石井公成、佐藤秀孝、程正、徳野崇行、山口弘江

●5ヶ年の事業内容・目標

5ヶ年の事業内容・目標

① 曹洞禅の源流を求めて…曹洞禅に至る禅の流れ

禅系三宗の一つである曹洞宗の大学として出発した駒澤大学。禅の源流は、古くインドに遡る。曹洞禅とその源流研究チームでは、インドの禅が中国に伝播し、中国的に展開し、それが中国宋代に入宋した道元禅師によって日本に伝えられ、瑩山禅師によって全国に広まった、歴史と思想を研究する。

また、これらの研究において重要な歴史的文献や、近現代の主要な著書や論文も紹介する。駒澤大学を中心とした禅学および宗学の研究史を明らかにし、それらの研究を概観できるようにして、本学の学生のみならず、広く内外の研究者や一般の人々にも役立つようにしたい。

② 坐禅作法の研究

道元禅師が伝来した禅の中心的修行である「坐禅」について、曹洞禅における坐禅の意義を明らかにし、さらにはその作法について、坐禅に関する文献に基づいた研究を行う。

③ 他チームとの連携

他チームの研究に協力し、また他チームが研究し発信する内容について、曹洞禅の視点による助言を行う。

●事業計画(2018年4月～2019年3月)

① 鏡島元隆博士講述「禅学概論講義ノート」を順次公開しながら、「インドにおける禅」、「中国仏教における禅」、「中国唐代の禅」「中国宋代の禅」「日本の曹洞禅」「日本における曹洞宗の展開」等について研究し、それを学内において講演というかたちで随時公開し、ホームページにおいても公開していく。同様に、「禅と心」の研究においてもZENの登場と心の探究をテーマにした、研究およびその公開を行う予定である。

② 坐禅作法の研究では、「インドにおける坐禅」、「中国天台関係文献に見られる坐禅」「中国禅宗関係文献に見られる坐禅」「臨済宗関係文献に見られる坐禅」、「曹洞宗関係文献に見られる坐禅」等の研究を行い、これらの研究成果についても随時公開していく。

●今後の計画

① 近代における「禅と心」研究シンポジウムの開催(2019年7月20日開催予定)

明治期における仏教学者であり駒澤大学の前身、曹洞宗大学林総監を務めた原坦山と、曹洞宗大学から駒澤大学と改称後の初代学長を務めた忽滑谷快天を中心に、両者の禅学、特に心理学的禅について取り上げ、近代における「禅と心」研究をテーマとしたシンポジウムを開催する。

② 坐禅作法の研究

道元禅師が伝来した禅の中心的修行である「坐禅」について、曹洞禅における坐禅の意義を明らかにし、その作法について、坐禅に関する文献に基づいた研究を行う。

●活動報告（2018年4月～2019年3月）

① 『禅の国際化』講演会(9月25日開催、於中央講堂)

ポーランドのマチエイ・カネルト博士(元アダム・ミツキエヴィッチ大学教授)を招き、下記により国際化する禅の一端に触れる講演会及びパネルディスカッションを開催した。

第1部 講演会「ポーランドの仏教と道元研究」(マチエイ・カネルト博士)

第2部 パネルディスカッション パネリスト:カネルト、シュプナル・法純(ポーランド生まれ・曹洞宗国際布教師)、松本史朗(仏教学部仏教学科教授)、角田泰隆(仏教学部禅学科教授)

② 連続講座「禅の歴史」

10月～11月にかけて「禅の歴史」について曹洞禅の源流を訪ねる連続講座を下記により開催した。「インド仏教における禅」から「日本の曹洞禅」に至る禅の歴史を、仏教学部のそれぞれの分野の専門の教員がわかりやすく概説した。

第1回 10月15日 講座1「鏡島元隆博士「禅学概論講義ノート」の概要について」(仏教学部禅学科教授、角田泰隆)、坐禅実習(教職員対象)

第2回 10月22日 講座2「インド仏教における禅」(仏教学部仏教学科教授、池田練太郎)、講座3「中国仏教における禅」(仏教学部仏教学科准教授、山口弘江)

第3回 11月5日 講座4「中国唐代の禅」、講座5「中国宋代の禅」(仏教学部禅学科教授、程正)

第4回 11月19日 講座6「日本の曹洞禅 — 一仏両祖 — 」(仏教学部禅学科教授、角田泰隆)、講座7「曹洞宗の展開」(仏教学部仏教学科講師、徳野崇行)

③ 10月8日の「禅をきく会」においては、曹洞宗宗務庁との合同企画のもと、「禅をきく会」恒例の「いす坐禅」の講師を源流チームリーダーの角田泰隆が務めた。

④ 11月16日の『禅と心』シンポジウムの初日、第1部において「道元禅とマインドフルネス」を取り上げ、早稲田大学人間科学学術院の熊野宏昭教授による「マインドフルネスとは」と題する特別講演と、チームリーダー角田泰隆による「道元禅と坐禅」についての講演が行われた。

⑤ 「臘八坐禅」の開催(※禅ブランディング事業の全体の企画として)

12月3日～7日の早朝(7時30分～8時30分)、駒澤大学の教職員と学生を対象とした坐禅会を開催した。坐禅指導は、源流チームと展開チームの仏教学部教員が行い、最終日には池田魯参総長にもご参加いただいた。

⑥ 源流チームの事業は、仏教学部と密接に関わっているが、前年度の自己点検・評価を踏まえて、事業の進捗状況や計画について、毎回仏教学部教授会において報告を行い、連携体制の構築に努めた。

○自己点検・評価（2018年4月～2019年3月）

- ① 『禅の国際化』講演会では、道元禅が国際化している一端を紹介することができ有意義であったが、事情により夕刻からの開催となり、講演会が講師一人によるポーランドの道元研究事情の紹介のみとなったことは残念であった。アンケート結果では、この講演会の満足度について、10点満点中10点満点が21%であり、7点以上を付けた聴講者が79%と非常に好評であった。但し、『禅の国際化』というテーマが大きすぎたのではないかという感想や、パネルディスカッションの時間が短く、もう少しパネラーの話を書きたかったという意見があった。今後さらに『禅の国際化』について多くの事例を紹介していきたい。
- ② 連続講座「禅の歴史」の開催は、「インド仏教における禅」から「日本の曹洞禅」に至る禅の歴史を概説した講座であり、禅ブランディング事業において重要な事業となったと思われる。講座1において鏡島元隆博士「禅学概論講義ノート」の第一部「禅の歴史」について概要し、これと関連させながらそれぞれの講座が行われたことは有意義であった。また、第1回において教職員を対象とした坐禅実習が行われ、これが「臘八坐禅」の開催につながったのではないかと思われる。
- ③ 「いす坐禅」は、曹洞宗宗務庁の皆さんや仏教学部の教員の協力により非常に好評であった。アンケート結果では、印象が深かったものとして8つの企画のうち和太鼓に次いで2番目であった。
- ④ 『禅と心』シンポジウムの第1部「道元禅とマインドフルネス」では、現今世界的に注目されているマインドフルネスとは何かについて学び、その基本理念となったといわれる「道元禅の坐禅」との共通点と相違点を明らかにすることができた。アンケート結果でも、両者の違いがよくわかり有意義であったという評価が多かった。
- ⑤ これまでも仏教学部では12月初旬の臘八摂心に因み、この期間、教員が任意に坐禅を行っていたが、禅ブランディング事業を契機に全学的に臘八坐禅が行われたことは実に有意義であった。
- ⑥ 仏教学部との連携体制の構築に努め、その結果、種々の事業において仏教学部教員の協力を得ることができたが、「臘八坐禅」開催については余裕を持った告知や協力依頼が出来ず、次年度開催の反省点となった。

○将来に向けた発展方策

- ① 『禅の国際化』について、今後さらに多くの事例を紹介していきたい。
- ② 鏡島元隆博士「禅学概論講義ノート」の第一部「禅の歴史」については、Web公開は第1章「インドにおける禅」のみとなっているが、引き続き第2章以降を公開していく。連続講座「禅の歴史」の講義内容については、将来的にこれをテキスト化し刊行して、駒澤大学の建学の理念を講義する全学共通の必修科目「仏教と人間」の授業の参考書として活用したいと考えている。

禅の受容と展開研究チーム

代表者	仏教学部	飯塚大展
メンバー	仏教学部	奥野光賢、岩永正晴、程正、村松哲文、大澤邦由
	文学部	田中徳定、近衛典子、モート、セーラ
	学内協力者	櫻井陽子
	学外協力者	永井政之(本学仏教学部名誉教授)、堀川貴司(慶応大学斯道文庫教授)

●5ヶ年の事業内容・目標

高度な中国文化である禅が、院政期以降、日本社会においてどのように受容されてきたのかを研究する。各時代における禅僧の活動、禅宗寺院のありかたを通して、禅が日本社会に及ぼした影響を考察する。鎌倉時代末から南北朝期に成立した五山、周縁的存在であった林下、その歴史的展開を踏まえ、多様な禅僧の活動に注目する。特に、戦国期以降、日本語による教義問答、その理解に基づく禅の言説に焦点を当て、日本の受容を明らかにする。江戸時代における禅籍の出版、注釈史的研究を行う。

禅の影響を、文学や芸能、美術など、日本文化の中に見出す試みを行う。

コンテンツ作成に特に力を注ぎ、禅語解説(禅僧の言葉、公案など)、禅僧の紹介、頂相・墨蹟の解説などを行い、『新纂禅籍目録』のデータベース作成を通じて、本学の所蔵する禅籍を紹介する。

●事業計画(2018年4月～2019年3月)

- ① 聖教(禅籍)に関する研究は『新纂禅籍目録』データベースの作成を進め、2018年度末～2019年度初の『新纂禅籍目録』データベース公開を目指し、11月を目処に運用準備を整え、12月から試用期間(ランニングテスト)を行う。
- ② 禅籍抄物史料データベースの作成は、外部機関との連携交渉を進め、建仁寺・両足院、各地の曹洞宗寺院での調査・撮影を年10回行う。
- ③ 禅における近世は、研究活動を進める一方で、他の研究チームや学内外へ向けた禅に関わる勉強会・研究会等を年8回開催する。
- ④ 禅と文化は、禅と文学、禅と芸能に関する研究活動を進めると共に、頂相と墨蹟(遺偈)のデータベース化に向けた研究会を年5回開催する。また、資料調査・撮影を年5回行う。

※その他、禅文化歴史博物館と共催で坐禅会を年10回開催(月2回、朝・夕各1回)する。

●今後の計画

- ① は、禅籍目録電子版(試行版)として公開を予定しているが、未掲載分の資料を随時加えるとともに、将来的な学外機関との連携を検討し、データベースの拡大・充実を図っていく。
- ② は未了分の調査・撮影を行い、データベースでの公開の準備を行う。
- ③ は連続講義等を行い、その成果を印刷物、WEB 等で公開していく。
- ④ は禅と文学・藝能に関するさまざまな研究・イベントを通して、コンテンツの作成を行い、2020 年度に成果発表を行う。

●活動報告 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

- ① 禅籍目録電子版(試行版)を 2019 年 3 月に作成(5 月より一般公開予定)。現在、『新纂禅籍目録』所載の全件に関する書名等 4 項目とア行～カ行(仮)に関する全項目を公開。
- ② 禅籍抄物史料データベースの作成は、両足院、各地の曹洞宗寺院での調査・撮影を計 2 回行った。
- ③ ④は 10 月「禅をきく会」において達磨に関する講演 3 本、11 月シンポジウムにおいて講演 3 本、6 月「梅花流詠讃歌による仏教讃歌」、12 月「禅の声」において実演と講演 2 本を行った。また、2 月には鎌倉・瑞泉寺における実地調査を行った。3 月 29 日には発信チームと連携し対談企画第 3 弾「禅×ART」の公開収録を行った。

○自己点検・評価 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

- ① 禅籍目録、禅籍抄物、敦煌文献等々を掲載するためのプラットフォームとしてのデータベースシステムの構築を行い、禅籍目録については限定的ではあるが一般公開を行った。次年度以降に向けた一定の成果を得た。
- ② 両足院所蔵典籍の撮影を 5,000 カット行ったが、今年度中での撮影終了には至らなかった。次年度、未撮影分資料の撮影を進めるとともにデータベース化の準備を並行して行っていく。
- ③ ④は展開チーム主催のイベント等を多く行い、さまざまなシンポジウムにおいて講演等を行った。年初計画になかった催し物が頻繁にあり、研究活動を行う余裕がなかった点は反省材料となる。

○将来に向けた発展方策

- ① 禅籍目録電子版(試行版)では未掲載分の資料を随時加え、データベースの充実を図る。また、将来的な禅籍抄物、敦煌文献等を掲載するための検討を行う。また、外部機関(禅籍を所蔵する大学図書館等)との交渉を行い将来的な協力関係を探る。
- ② 未撮影資料の撮影・調査を進めるとともに、データ公開に向けたデータ作成等を進める。
- ③ は連続講義等を行い、その成果を印刷物、WEB 等で公開していく。
- ④ は禅と文学・藝能に関するさまざまな研究・イベントを通して、コンテンツの作成を行い、2020 年度に成果発表を行う。

禅による人の体と心研究チーム

代表者	医療健康科学部	名古安伸
メンバー	医療健康科学部	吉川宏起
	文学部	鈴木常元、茅原正、谷口泰富、荒井浩道、久保尚也、小室央允、
	経済学部	松井柳平、江口允崇、村松幹二、矢野浩一、井上智洋、増田幹人、 鈴木伸枝、舘健太郎、西村健
	総合教育研究部	鈴木淳平
	学外協力者	瀬尾育弐(医療健康科学研究所 顧問) 田中仁秀(曹洞宗総合研究センター)

●5ヶ年の事業内容・目標

近年、世界的に禅が注目されているようです。これは現代社会が急速に変化することから生ずる「心の問題」にあるのではないのでしょうか。禅の教えに「身心一如」ということばがあります。身体と心は常に一体で、切り離すことはできない。という意味です。私たちは、「坐禅」が人の体と心にどのような効果をもたらすのか、科学的に分析し研究を進めています。

「坐禅」を科学的に捉える方法として、①脳波測定や、②磁気共鳴画像(MRI ;Magnetic Resonance Imaging)があります。坐禅による体と心の変化を数値または画像で表すことができないか研究しています。また、③坐禅が人の行動特性に与える影響について、その因果関係を客観的なデータから科学的に検証することを目指します。これら3つの研究を進めることで、現代人が抱えている心の問題を坐禅の観点から、提言することができればと思います。

今、私たちは先行研究の整理と実地調査を行っているところです。坐禅の姿勢と呼吸はどのように関係するのか、科学的データの蓄積と分析を進めているところです。そして、今後さらに「曹洞禅とその源流研究チーム」、「禅の受容と展開研究チーム」と連携して研究を進めていきます。このページではその結果をお伝えしていきたいと思っています。

●事業計画(2018年4月～2019年3月)

- ① 禅の心理学的側面からの研究:坐禅時特有の緩徐な呼吸様式や身体的・生理的変化について、文献研究を進め、坐禅実施時の脳血流の変化や呼吸運動など、身体変化のデータ測定をおこなう。
- ② ファンクショナルMRI法による脳機能解析の研究:曹洞禅の僧侶と、坐禅の未経験者を比較し、坐禅の習熟度の違いによる脳活動の変化をMRI装置を用いて画像化する。
- ③ 禅の影響についての統計学的研究:ランダム化比較実験をおこない、禅の影響について統計的に調査・研究する。ランダム化比較実験の手順について見直し検証をし、試行的な実験で得られたデータの分析結果をもとに、さらなる実験を検討する。

●今後の計画

2019年度はこれまでの研究成果を禅ブランディング HP にて公表するよう作業を進める。

2020年度は禅(ZEN)プログラムの検討と構築を目指し、開発したセミナー等のプログラムを実践し、駒澤大学のみならず、広く社会へ普及するよう努める。そして、本学の学生教育の一貫として、禅(ZEN)プログラムを提案し、駒澤大学生のアイデンティティの形成につなげる

●活動報告 (2018年4月～2019年3月)

- ① 禅の心理学的側面からの研究: 心理学的側面からの研究については、文献研究と実験の準備が主な活動となった。前者の文献研究については、次の2点を中心におこなった。ひとつは従来の禅を対象とした心理学研究、特に脳波について測定をおこなった研究成果のレビュー、もうひとつは心理学界で多くの研究者が注目しているマインドフルネスと禅についての比較である。前者の成果については11月17日開催したシンポジウムにて、後者の成果については2018年度の1月より禅ブランディング HP のコラムにて公表を開始した。実験準備については、取得データ数が少数になることが予想されたため、実験結果の妥当性を高めるための実験デザインについて検討をおこなった。また、測定装置として使用するNIRSの操作や取得データの分析について確認をおこなった。
- ② ファンクショナル MRI 法による脳機能解析の研究: 坐禅時を想定した状態、呼吸、意識による違いを本学仏教学部の教員の指導とご協力によりおこなった。結果については、現在解析を進めているところである。また、学外施設の装置でも研究を検討しているところであるが、装置故障のため中断している。
- ③ 禅の影響についての統計学的研究: 禅の影響についてランダム化比較実験を2019年1月25日に学生31名の協力によりおこなった。また、実験結果を測定するためのアプリも独自に作成した。あらかじめ坐禅をおこなうグループとそれ以外のグループとをランダムに分けることによって、坐禅以外の要因については統計的に同質な2つのグループをつくり、坐禅をおこなうグループに対しては本学仏教学部の教員の指導の下、曹洞宗の坐禅の作法に則って坐禅をおこない、その後、両グループとも、正確さが求められる作業をおこなってもらい、坐禅の影響について実験をおこなった。この小規模実験の統計分析においては、正確さが求められる作業への坐禅の効果について統計的に有意な結果は検出されなかった。今後は、坐禅の効果を測定する行動特性についての再検討、実験参加者のさらなる募集等、検討すべき課題が明らかとなった。
- ④ 11月17日、『禅と心』シンポジウム2日目の、第1部「禅瞑想の科学的研究」において、有田秀穂先生(東邦大学医学部名誉教授)より『坐禅の科学』、谷口泰富先生(駒澤大学文学部教授)より『禅瞑想の脳電図学的考察』の講演が行われた。

○自己点検・評価（2018年4月～2019年3月）

- ① 禅の心理学的側面からの研究では、文献研究の成果をシンポジウムと禅ブランディング HP を通じて公表したことにより、禅を心理学的側面から研究する意義や本学独自の分野として確立した禅心理学の研究成果について報告することが出来た。
- ② ファンクショナル MRI 法による脳機能解析の研究では、前年度より研究を進められたものの、その成果を報告するまで至らなかった。
- ③ 統計学的研究では、禅の影響についてランダム化比較実験をおこなうことで、学生に坐禅、ランダム化比較実験、統計分析について伝えることが出来た。また今後検討すべき課題も明らかとなった。
- ④ 『禅と心』シンポジウムの「禅瞑想の科学的研究」では、有田先生、谷口先生から坐禅の効果について科学的分析を基に解説を頂き、「エピソードやユーモアを交えて脳波から坐禅の効果が説明され、参考になりました。」など、来場者の方々からも好評であった。一方で、「配布資料を準備して欲しかった。」などの今後の課題も見つけることができた。

○将来に向けた発展方策

各メンバーがそれぞれの研究について更に探求し、お互いの研究成果を評価し、研究成果を高める。そして、禅ブランディング HP の更新等、成果を公表する。

最終年度は、他研究チームと協力し、禅(ZEN)プログラムの構築、書籍などの出版にも繋げることも検討する。

禅と現代社会研究チーム

代表者	経営学部	青木茂樹
メンバー	仏教学部	飯塚大展
	文学部	久保田昌希
	経済学部	長山宗広
	経営学部	小野瀬拓、兼村栄哲、菅野沙織、中野香織、中村公一、若山大樹
	GMS	各務洋子、山口浩
	法科大学院	日笠完治
	学外協力者	廣瀬良弘

●5ヶ年の事業内容・目標

禅(ZEN)と社会制度の研究 においては、今日的な禅の世界的な流行、およびその応用として企業や医療、健康などの分野に広く広まっていることについて、各々の専門分野の関心から紐解くことを目途としている。そのためには、(1)中世の日本において、禅(ZEN)が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにすること、(2)現代の社会制度に求められる経営理念や経営者の意識、ダイバーシティ、サステナビリティ等の思想やその実践に、禅(ZEN)がどのように活かされるかを検討すること、(3)禅(ZEN)の観点から、現代人が抱えている心や社会制度の問題に提言をすることに関わる研究を個々人が進める。

●事業計画(2018年4月～2019年3月)

2018年度は、禅思想と社会制度について、禅(ZEN)と社会制度の研究 中世から近世の禅(ZEN)について、学外の連携機関と交流を深めつつ、社会制度の観点から本格的な調査研究を行う。視察および各自の研究と学際研究会を進め、歴史、資料研究、実態調査を踏まえ、研究成果を中間報告にむけてまとめる。これについては、フォーラムでの発表および出版を予定している。

①視察PJ: 知見を広める。

禅(ZEN)を中心に事業展開をしている国内外の機関(大学、研究所、博物館、心理カウンセリングやコンサルティング、医学、アート、飲食、寺院など)を視察し、セミナー参加や体験、講演などを通じて、古今東西の禅(ZEN)を体感し、議論する機会をつくることで新しい知見を得る。

隔月程度での、(1)機関への視察、(2)主宰者側と我々との意見交換会、(3)各自の視察報告書の提出をルーティンとする。

②学際研究PJ: 個人研究を深める。

①に参加し知見を深めながらも、別途、個人研究を進めていく。研究内容については、チームでの学際研究報告会にて一人年1回程度の報告を行い、多様な専門家の意見を聞くことでインターディプリナリー(学際的)な研究を進める。学際研究PJには、個人研究を担当しないPJメンバーも社会制度以外のメンバーも参加できる機会をつくる。

③フォーラムPJ: 成果を公表する。

①、②の研究成果を踏まえ、年度内にフォーラムを実施する機会を企画する。

④出版PJ: 成果を公表する。

最終事業年度までに、①、②の研究を通じた出版等を計画する。

●今後の計画

2019年度は、禅思想と社会制度について、禅(ZEN)と社会制度の研究 中世から近世の禅(ZEN)について、学外の連携機関と交流を深めつつ、社会制度の観点から本格的な調査研究を行う。視察および各自の研究と学際研究会を進め、歴史、資料研究、実態調査を踏まえ、研究成果を中間報告にむけてまとめる。これについては、フォーラムでの発表および出版を予定している。

①視察PJ: 知見を広める。

来年度は永平寺に、新たな宿坊ができることとなる。このターゲット、サービス展開などを視察することとする。また永平寺は福井県における永平寺のブランディングを展開しており、行政や地域とどのような連携によって、観光戦略などを展開しているのかを実地調査することとする。

②学際研究PJ: 個人研究を深める。

- ・昨年のネットリサーチから発展させた、経営者の禅の勉強会の調査。勉強会コミュニティの意味や経営者が期待するメリットを調査する。
- ・学際研究の応用として、現代社会チームメンバーでの研究発表会を計画している。その際に、ゲスト・スピーカーとして、禅の精神を発展的に現代に展開している精進料理の研究者、日本建築の研究者、心理学やセラピーなどの研究者または実践者の話を伺う計画を年3回予定している。
- ・大船観音寺は曹洞宗・大本山總持寺の直末寺であり、白衣観音は大船のシンボリックな存在である。2011年3月11日東日本大震災の被災地「大船渡市」と大船を“禅”でつなげて世界発信するプロジェクトを行う。
- ・JINS MEME ZENはこのJINS MEMEを用い、臨済宗妙心寺派春光院 副住職 川上全龍師等の監修の下、日常の中での瞑想を実践することを目的として開発されたスマートフォンアプリを調査し、現代人がどのように禅を実践していくかについて考察する。
- ・総持寺が毎年夏の視察。「み霊まつり」は、一般的な盆踊りのイメージとは異なり、若年層を中心に数多くの人々が集まり、「一休さん音頭」や「ひよっこりひょうたん島」などに乗って熱狂的に踊るイベントとして知られている。その目的や成果を調査する。
- ・企業における実践状況の調査や現地視察、マインドフルネス講師へのインタビュー、禅とマインドフルネスに関する消費者意識調査などを通して把握、分析の上、論文その他の論考を通じ社会に発信する。

③フォーラムPJ: 成果を公表する。

①、②の研究成果を踏まえ、年度内にフォーラムを実施する機会を企画する。

- ・松本紹圭の講演。同氏は浄土真宗本願寺派光明寺(港区神谷町)の僧侶であるが、自らMBAを取得し2012年、住職向けのお寺経営塾「未来の住職塾」を開講している。
- ・禅ブランディング事業において、そのターゲットは学生としながらも、これまでのイベントへの参加状況が低い。そこで、本学に関係の深いアーティストにプロデュースを依頼し、禅の本質を理解しながらも音楽などの創作物に、学生を巻き込み、作品を仕上げていくことを企画する。

④出版PJ: 成果を公表する。

現代社会チームの研究成果を書籍として出版する準備をする。

●活動報告 (2018年4月～2019年3月)

「禅と経営のネットリサーチ」では、2018年11月に企業の創業者、役員、管理職を対象に、坐禅やマインドフルネスの実施状況と経営の状況を質問するネットリサーチを実施し、1,500のサンプルを獲得することができた。このことによって坐禅の頻度と会社経営に関するいくつかの傾向が明らかになった。この調査で得られた知見は翌年度以降、学会報告や学内紀要等での論文により発表される。

①視察PJ:

(1)向源 2018 参加(菅野、小野瀬、山口、青木)

無我の創造—仏教思想から紐解くクリエイション 2.0 の世界—

(2018年5月5日10～12時@中目黒正覚寺)

モデレーター(三浦祥敬氏)、松本紹圭氏、林口砂里氏、井庭崇氏によるセミナーに、菅野・青木が参加。

(2)神勝寺と福山市役所へのヒアリング

- ・神勝寺:「禅と庭のミュージアム」を展開し、禅の教えを広めるユニークな取り組みをしているため。
- ・福山市役所:福山市の地域ブランド戦略の一環として、神勝寺を位置づけているため。

②学際研究PJ:個人研究を深化させる。

禅ブランディング研究会の開催

(1)2018年5月 経営学部 小野瀬・菅野・青木による向源参加に関する報告

(2)2018年6月 GMS 山口から仏教とメディアに関する研究報告

(3)2018年7月 経営学部青木から仏教伝播(教化)におけるその象徴性と機能性に関するご研究報告

(4)2018年7月 ゲストを招聘したセミナー開催

ゲスト:悟東あすか氏(漫画家・真言宗尼僧)、野村圭秀氏(龍樹山宝蔵寺住職・駒大卒)

2限(講義): テーマ「仏教の世界観の違い(仮)」

3限(ディスカッション):お坊さんと話そう&質問しよう

向源企画に携わる両氏をお招きし、仏教の世界観の違い、仏教を伝えるお二人の取り組みについてお話を伺いました。

(5)2019年3月 個人研究の報告を行った。新勝寺の視察報告も行った。

小野瀬・青木の研究成果および、グループによる新勝寺の視察報告も、論文として2019年に報告する(予定)。

③フォーラムPJ:成果を公表する。

2018年11月16日に「経営組織と禅・マインドフルネス」を実施し、禅の考え方が企業経営や学校教育にどの活かされているかを学んだ。仏教学部の先生や学生にとっても、仏教の企業での活用方法を知ったことが今後の教育の参考になったという。

④出版PJ:成果を公表する。

最終事業年度までに、①、②の研究を通じた出版等を計画している。

上記、活動について、研究報告としてまとめないものは、禅ブランディングサイトのコラムとして配信の準備をしている。

○自己点検・評価（2018年4月～2019年3月）

- ①視察PJは、学内の論文や書籍を中心とした研究会と違い、現場での活動、特に新規のイベント参加が多いため、経営学の研究者にとっては刺激的であった。またそのプロセスの中で重ねた議論が共同研究らしいディスカッションとなっている。これまでの大学の中では得られない研究者集団としての醍醐味となっている。
- しかし、その研究成果の報告が他のプロジェクトに比べて、遅れていることは否めないもので、進捗を早めたい。
- ②学際研究PJは、個々の個人研究を進化させることを目的としており、これまでの仏教研究には無かったであろう領域を各自が模索している段階にある。今年は結実に向けて進捗を早める予定である。
- ③フォーラムPJは、今年も予定している。今年度が文科省の禅ブランディング事業としては最後なので、大きく展開したいが、学生を巻き込むことができていないのでこの課題をクリアしたい。
- ④出版PJは、最終年度となってしまったので至急、構成など、出版社を含めて議論する。
- 最終事業年度までに、①、②の研究を通じた出版等を計画している。

○将来に向けた発展方策

- ①視察PJ: 講演やイベントへの参加も増やしていくが、これからは対象を絞って、その成果報告へ向けた視察を進めたい。永平寺のブランディング展開もその一つとなる。報告書としてまとめ、さらなる知見の蓄積を目指したい。
- ②学際研究PJ: 時間調整が難しいのであるが、文科省としては禅ブランディング事業の最終年度である「禅ブランディング研究会」において活発な議論を進めて行きたい。いくつかは年度内に研究報告として論文にまとめる予定となっている。
- ③フォーラムPJ: 学生を巻き込んだプロジェクトとするため、学生団体のZENPALをコアとして、フォーラムの企画立案からプロモーションに到るまで実行して行く。金曜日の決まった時間に月1回は教職員・学生で議論する時間を設ける。
- ④出版PJ: 書籍出版の目的を明確にするとともに、具体的なテーマの検討を行い、出版を依頼する出版社に直接打診をする

禅ブランディング発信事業チーム

代表者	GMS 学部	各務洋子
メンバー	経営学部	青木茂樹、中野香織、中村公一
●5ヶ年の事業内容・目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1.禅(ZEN)の情報について、WEB コンテンツを制作し、国内外に向けて発信する。 2.禅の(ZEN)の無関心層に向けて、WEB サイトへ導く企画を実施し、また社会へ貢献する。 3.駒澤大学を拠点とした寺院との連携機能(ハブ&スポーク)を構築し、本事業の研究成果を各寺院で活かす環境を整備する。 4.2020 年の東京オリンピック開催を契機とし、禅(ZEN)を国内外に発信する。 5.4チームの研究成果の発信をサポートし、大学全体の禅(ZEN)研究ブランドを確立する。 		
●事業計画(2018 年 4 月～2019 年 3 月)		
<p>2018 年度は 2017 年度の事業内容(企画等)を継続し、企画内容は随時新しく更新して、WEB サイトの充実を図る。また、世界発信に関する様々な企画は、2017 年度の<無関心層>に対する喚起(ATTENTION)に注力した企画から、次の段階へと関心層のターゲットを次第に高度な関心層に拡大する企画を検討する。</p> <p>具体的には①卒業生と仏教学部を中心とした教員との対談企画を進める。②SNS を利用した発信を充実させる。</p> <p>その他、4 研究チーム主催のシンポジウムや、イベント等をサポートし、発信する。</p>		
●今後の計画		
<p>2019 年度は 2017 年度、2018 年度の事業内容(企画等)を継承し、随時 WEB サイトの更新を行うとともに、シンポジウムをはじめとした様々な企画を実施する。また世界発信のターゲットを 2018 年度から更に研究者層といった高度な専門家にもアクセスしていただけるような専門的なコンテンツの内容を充実させる。同時に、無関心層、学生層への訴求に力を入れる。その他、発信事業の効果を検証する。</p> <p>2020 年度(最終年度)は、最終年度として、無関心層(学生)を中心とした訴求を拡大させるとともに、東京オリンピック開催を契機としたグローバルな発信に注力する。5 年間の本プロジェクトの総括として、国際シンポジウムなどを企画し、グローバルなレベルで本事業の成果を発表するイベントを実施する。加えて、5 年間の成果をわかりやすいテキストとして書籍にまとめ、出版する計画である。さらに、前年度に検討された国内寺院との連携体制を踏まえたプログラムの実施や、国外他機関等との連携体制の構築に臨む。</p>		

●活動報告（2018年4月～2019年3月）

- ① 禅ブランディング WEB サイト関連
・記事修正、WEB マニュアル制作、WEB サーバー運用など
- ② 禅ブランディング ステッカー製作
- ③ 禅ブランディング ポスター製作
- ④ 禅ブランディング クリアファイル製作
- ⑤ 禅ブランディング タペストリー製作
- ⑥ 禅ブランディング マルチトートバック製作
- ⑦ 禅ブランディング インスタグラム施策事業
- ⑧ 禅ブランディング 「駒澤大学×ZEN 対談」企画
〈第一弾〉 長谷部学長×萩本欽一氏
〈第二弾〉 角田先生×有田秀穂氏
〈第三弾〉 村松先生×安西 智氏

○自己点検・評価（2018年4月～2019年3月）

- ① 禅ブランディング WEB サイト運営については、記事修正、マニュアル制作、サーバー運用、WEB サイト SSL 更新作業など、メンテナンス等で費用が発生したが、概ね安定した運営ができた。
- ② 禅ブランディングのステッカーを製作し、各研究チームのイベントや、オータムフェスティバル、オープンキャンパスなどで配布し、禅ブランディング事業の訴求に使用した。
- ③ 禅ブランディングのポスターを製作し、学内に掲示して事業の訴求に務めた。
- ④ 禅ブランディングのクリアファイルを製作し、ステッカーとともに、各研究チームのイベントや、大学の行事などで配布して、禅ブランディング事業の訴求に使用した。
- ⑤ 禅ブランディングのタペストリーを製作し、学内種月館 2 階のメインロビー壁面に掲示し、訴求に利用している。（期間は本事業終了まで）
- ⑥ 禅ブランディングのマルチトートバックを製作し、主に学外からの訪問者などを中心として配布し、訴求に務めた。
- ⑦ インスタグラムの開設により、無関心層の目線で禅のコンテンツを訴求出来る場ができた。特にアクセスした学生からの評価が高いため、アクセス数を増加させることが今後の目標である。
- ⑧ 対談の参加者だけでなく、WEB サイトに掲載した対談のコンテンツは無関心層である学生からも非常に好評であった。今後はアクセス数を増加させる施策を検討したい。

○将来に向けた発展方策

2019年、2020年に向けて、学生を中心とした無関心層への訴求に力を入れるとともに、2020年開催のオリンピックをターゲットとして、訪日外国人に本事業を通して、本事業の5年の成果を世界に発信するための訴求方法を検討する。具体的に継続する企画として、2018年度から開始した駒澤大学×ZEN 対談、インスタグラムを通して、無関心層へわかりやすい発信を継続する。さらに5年間の成果を書籍としてまとめ、出版する計画である。

事務部門

代表者	教育・研究担当副学長	日笠完治
関係部署		禅文化歴史博物館、総務部広報課
●5ヶ年の事業内容・目標		
<p>① 4 研究チームのサポート・5 チームリーダー連絡会の運営（禅文化歴史博物館） 「曹洞禅とその源流研究チーム」「禅の受容と展開研究チーム」「禅による人の体と心研究チーム」「禅と現代社会研究チーム」それぞれの活動の事務的側面を担う。定期的に開催されるチームリーダー連絡会を円滑に運営する。チーム合同で実施する計画の際には、広報活動などの支援も行なう。</p> <p>② 禅ブランディング発信チームのサポート（禅文化歴史博物館） 禅ブランディング発信チームの活動の事務的側面を担う。禅ブランディング専用 WEB サイト等の運営等における(株)電通との調整等を事務的側面からサポートする。</p> <p>③ 大学ホームページへのニュースリリース、プレス対応（総務部広報課） 上記①②などの情報を、大学 HP へのリンクや記事の更新、学外からの問い合わせ対応を行う。</p> <p>④ 禅ブランディングプロジェクト・チーム会議の運営（禅文化歴史博物館） 教育・研究担当副学長をプロジェクトリーダーとする PT 会議の運営を行う。併せて、審議内容の学内調整や各チームを横断する事項など、必要に応じて対応する。</p> <p>⑤ 禅ブランディング自己点検・評価、及び外部評価（禅文化歴史博物館） 前年度自己点検・評価結果の外部評価を受けるとともに、今年度の自己点検・評価、及び外部評価を行う。</p> <p>⑥ 禅センター(仮称)の設置準備（禅文化歴史博物館、ほか学内関係部局・学部等） 2018 年 4 月を目指し、禅センター(仮称)の設置準備に着手する。関係する事務部門、学部等を含めた設置準備委員会(仮称)を設置して各種検討を行い、その後の学内手続きや施設・設備の整備を実施する。</p>		
●事業計画(2018 年 4 月～2019 年 3 月当初計画)		
<p>① 各研究チームの事務的支援、及びチームリーダー連絡会の運営を随時行う。また、今年度に計画されている各チームのイベント及びチーム全体で取り組む「禅と心シンポジウム」の開催に向けて運営支援を行う。</p> <p>② (株)電通との基本契約に基づき、個別契約・注文書に係る手続きを行う。禅ブランディング事業 WEB サイトへの記事の投稿作業については、学内手続きを踏まえ、随時更新していく。今年度、発信チームで計画されている「対談企画」について事務的支援を行う。</p> <p>③ 大学 HP との連動や、プレスセンターへのリリースを通じ、広報活動を進める。</p> <p>④ 関係各所と調整し、会議の運営事務を行う。親委員会である研究活動推進委員会との調整を行う。</p> <p>⑤ 自己点検・評価報告書を 4 月上旬までに作成し、4 月から 5 月初旬にかけて外部評価委員に評価いただく。いただいた評価は自己点検・評価委員会で報告を行い、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議、及び研究活動推進委員会の報告を経て、5 月末までに大学 HP で公開する。</p> <p>⑥ 2018 年 4 月の改組により、禅文化歴史博物館に運営課と禅ブランディング推進係が設置され、これまで教務部研究推進課が担当していた業務を引き継ぐこととなった。</p>		
●今後の計画		
<p>補助金受給期間が 2019 年度までとなったため、5 ヶ年計画の見直しが必要ではあるが、禅ブランディング事業そのものは 2020 年度まで継続される。4 年目までの達成度で総括を行い、大学 HP に公開する。</p>		

●活動報告 (2018年4月～2019年3月)

- ① 2018年度のイベント(6/7 音楽法要、9/25 禅の国際化講演会、10/8 禅をさく会、11/16・17 禅と心シンポジウム、12/14 禅の声)開催の運営支援を行い、各イベントでアンケートを作成し、集計を行った。また、アンケートは取らなかったが、「禅の歴史」連続講座と臘八坐禅の実施に事務支援を行った。
- ② 発信チームで作成したグッズ等の発注に際し、事務処理を行った。また禅ブランディング WEB サイトへの掲載手続きや、「対談企画」収録～掲載までの事務支援を行った。
 - 禅ブランディング WEB サイト「ZEN,KOMAZAWA,1592」(<https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/>)
 - 総アクセス数(2018年4月1日～2019年3月31日):6923件
 - 掲載数:コラム 11本、研究成果 4本、SPECIAL 1本、ニュース 12本 計 28本
 - インスタグラム(2018年12月7日より投稿開始) 投稿数(2019年3月31日現在):14件
- ③ 2018年度開催の各イベントは、大学HPへ掲載し、大学プレスセンターへのニュースリリースや世田谷プラットフォームへの掲載も行った。「禅と心」シンポジウムについては産経新聞への広告掲出も行った。
 - 大学HP内禅ブランディング特設ページ(<https://www.komazawa-u.ac.jp/zen-branding/>)
 - 総アクセス数(2018年4月1日～2019年3月31日):14,589アクセス
- ④ 禅ブランディングプロジェクト・チーム会議(5月25日、7月30日、12月7日、3月19日開催)、チームリーダー連絡会(計21回)に際し、資料・議事録を作成し、事務的支援を行った。研究活動推進委員会(5月30日、1月9日開催※教務部所管のため禅ブランディング関連の議題があった回を記載)へ議題を上程し、資料作成を行った。
- ⑤ 2017年度分の自己点検・評価を、外部評価委員会(5月18日開催)にて評価を受け、文部科学省への報告を行った。
- ⑥ 2018年度より、禅文化歴史博物館に運営課と禅ブランディング推進係が新設され、教務部研究推進課が担っていた業務を引き継ぎ、禅ブランディング事業に係る事務組織が明確化され、上記①～⑤に係る事務処理を行った。

また、禅ブランディング事業予算も禅文化歴史博物館に計上され、2018年度は予算額 3,205.5 万円、決算額 2,444.6 万円、執行率は約 76.3%であった。

○自己点検・評価（2018年4月～2019年3月）

- ① 2018年度のイベント(6/7 音楽法要、9/25 禅の国際化講演会、10/8 禅をきく会、11/16・17 禅と心シンポジウム、12/14 禅の声)は、支障なく開催できたものの、事前準備で残業時間が超過してしまったことと、広報活動の不足が今後の課題となった。
- ② 2017年度末に開設された禅ブランディング WEB サイト「ZEN,KOMAZAWA,1592」は、(株)電通より運用方法のレクチャーを受け、マニュアルに沿って禅ブランディング推進係でニュース、コラム、研究成果等の掲載手続きを行った。12月にはインスタグラムを開始し、ステークホルダーへの遡及をはかったが、投稿数が少なく、コンテンツを増やしていくことが今後の課題である。
10月より始まった対談企画は、年度内に3本の収録を行い、1本がWEBサイトに掲載されたが、掲載までの校正や画像のチェックに多くの作業が発生し、かなりの負担となっている。今後は発信チームや(株)電通とチェック方法の検討が必要である。
- ③ 総務部広報課により、大学HPへの掲載、プレスセンターへのニュースリリース、関連媒体への記事の掲載を行うことができた。
- ④ ⑤については、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議や、定期的なチームリーダー連絡会の開催に際しては、滞りなく運営サポートができた。2017年度の進捗状況、自己点検・評価結果等に関する情報も大学HPにて遺漏なく公開できた。
- ⑥ 禅ブランディング推進係の新設により、事務担当は明確になったが、年度当初はこれまでの引継ぎに終始してしまいう面が多くみられた。また、2018年度はイベントの開催が多く、その運営に終始してしまったので、今後は、事業全体の認知度を高める事務支援を行いたい。

予算の執行については、事業計画に基づき、適切に執行することができた。

○将来に向けた発展方策

2019年3月8日に文部科学省私学助成課の説明会があり、私立大学研究ブランディング事業への支援期間を2019年度までとする旨が告げられた。本学は2016～2020年度までの5年間の受給予定で事業計画を策定しているので、計画の見直しが必要となるが、禅ブランディング事業は2020年度も継続して進める。大学当局に対し、事業を継続する重要性を認識してもらい、2020年度以降の予算獲得に努めたい。

2019年度までを総括し、文部科学省へ報告することとなるため、今年度は禅ブランディング WEB サイトの充実に努め、事業の認知度向上(アクセス数の増加)を図る。掲出済みのコンテンツの英訳や、研究成果の掲出の部分で、事務的支援をしていく。

2019年4月に学生主体のZEN-PALという組織が立ち上がるので、学生たちの意見を取り入れながら、禅ブランディング事業を学生たちに浸透させたい。

総 括

●5ヶ年の事業内容・目標

現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、1. 現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、2. 多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、3. 坐禅の身心への影響を科学的に検証し、4. 全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。

●事業計画（2018年4月～2019年3月当初計画）

2018年度は、引き続き学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅ブランディング WEB サイトの充実を図り、学生や社会への広報活動を行う。

●今後の計画

補助金受給期間が2019年度までとなったため、5ヶ年計画の見直しが必要となるが、禅ブランディング事業は予定通り2020年度まで継続される。4年目までの達成度で総括を行い、大学HPに公開する。

2019年度は研究成果の波及や実践的な行事を行う。2020年度はシンポジウムを開催し、本事業の研究成果を全世界に発信する。また研究成果を出版物として刊行する。

●活動報告（2018年4月～2019年3月）

- ① 研究4チーム（曹洞禅とその源流研究チーム〈以下、「源流チーム」という。〉・禅の受容と展開研究チーム〈以下、「展開チーム」という。〉・禅による人の体と心研究チーム〈以下、「身心チーム」という。〉・禅と現代社会研究チーム〈以下、「現代社会チーム」という。〉）は、研究活動を進め、その成果発表の一環として、WEB サイトコンテンツ 28 件を作成すると共に、各研究チーム主催または合同でのイベント等を開催し、外部発信を行った。（6/7 音楽法要、9/25 禅の国際化講演会、10/8 禅をきく会、10/15・22、11/5・19 「禅の歴史」連続講座〈4日間・8講座〉、11/16・17 禅と心シンポジウム、12/14 禅の声、12/2～12/7 臘八坐禅）。
- ② 禅ブランディング発信事業チーム（以下、「発信チーム」という。）により禅ブランディング事業 WEB サイトにコンテンツ 28 件を掲載し、Instagram も開設した。また、3 件の対談収録を行い、1 件を公開した。（<https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/contents/1018/>）
また、制作物としてクリアファイル、トートバック等を制作し、各研究チームのイベントや、大学の行事などで配布して、禅ブランディング事業の訴求に使用した。
- ③ 4月に禅文化歴史博物館内に禅ブランディング推進係が開設され、教務部研究推進課が担当していた業務を引き継いだ。禅ブランディング事業全体に関わる、予算編成及び、執行を始めとした事務運営を行った。また、禅ブランディングプロジェクトチーム会議4回、チームリーダー連絡会21回、自己点検・評価委員会1回、行った。発信事業の事務支援として、WEB サイト、Instagram 運営、サーバー管理等を行った。

○自己点検・評価 (2018年4月～2019年3月)

- ① 各チームによる研究も進み、その成果を WEB サイトに公開したが、イベントが後期に集中したため、成果としてまとめきれていないものが多く、コンテンツを増やしていくことが今後の課題となっている。2018年度は、多くのイベントを開催したが、在校生の参加が少なかったことが課題となった。今後は内容の検討とともに周知の方法を考えたい。
- ② 新規開設したインスタグラムには、禅語の書や仏教にまつわる動画、写真を投稿し、新たな発信媒体として軌道に乗せることができた。しかし、フォロワー数は依然として少ない状態であり、認知度を高めることが課題となった。今後は更に WEB サイト、インスタグラム共にコンテンツの充実を図り、発信力を高めていきたい。
- ③ 定期的にチームリーダー連絡会を開催し、研究チーム間の情報共有を図ることができた。禅ブランディングプロジェクトチーム会議の開催や、研究活動推進委員会への審議事項の上程により、当事業の取り組みが学内全体で理解が得られるよう努めた。

○将来に向けた発展方策

当事業の認知度を高めるため、魅力的な情報発信を行っていく。具体的には、コンテンツの基礎となる研究活動を充実させ、WEB サイト等で公開していく。また、イベント等では広報活動を積極的に行い、メインターゲットである在校生、受験生をはじめとする社会一般の興味・関心を高めていく。

禅ブランディング推進係を中心に当事業の事務的サポートをより充実させていく。特に学内（在校生・教職員）に向けて、当事業の認知度を高める取り組みを引き続き行っていく。